

## 一般質問通告書(平成 27 年 12 月定例会)

氏 名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 6番 金子 益三 1 外国語対応職員配置について (町 長)</p>	<p>今年度、外国人観光客の入込状況について全国はもとより、北海道においても過去最高の入込となった地域が多くある。まさに「爆買い」などの言葉が生まれるまでのアジアからの富裕層のインバウンドが激増した。わが町においては、東日本大震災いわゆる 3.11 以前の中国本土からの観光客の入込までは至らないまでも、台湾、香港をはじめ、東南アジア諸国からの観光客の入込も昨年に比べると増加している。さらに、富良野・美瑛の観光圏においての外国人観光客の入込状況は先の報道にもあるように、年々大きく伸びている状況にある。</p> <p>先日、占冠村にある観光施設も、中国企業が国内大手リゾート企業から 183 億円で買い取り、今後ますます富良野美瑛地域への外国人観光客の増加が見込まれる。</p> <p>このような状況において、現在上富良野町の観光案内施設では外国語対応の職員が不在である。富良野市、美瑛町、中富良野町の観光協会では外国語対応職員が配置され、占冠村では民間の観光施設に外国語対応の職員が常勤している。</p> <p>当町においては、観光協会で正職員として外国語対応ができる職員が配置されておらず、パートの職員一人が唯一、少しの外国語の対応をしている状況である。観光ボランティアの皆さんも外国語への対応では困惑している状況にあり、わが町のこれからのインバウンド観光客増加のためにも、早急に外国語対応ができる職員を観光部署に配置させる必要性を強く感じるが、対応はいかがか。</p>
<p>2 自転車を活かした、まちづくり観光 振興について (町 長)</p>	<p>近年、北海道への新しい観光分野としてスポーツサイクリングを中心とした観光が大きく伸びている。昔は自転車での旅行はお金を掛けずに時間に制約されない学生などによる、ランドナーなどを利用した通過型の旅行が主流であったが、昨今は数十万円から数百万円の高級自転車による、本格的なツーリングやロングライド、各種目的別のサイクルイベントが非常に人気で、多額の参加費を払ってでも遠方から訪れるようになってきた。</p> <p>富良野・美瑛の広域観光圏においては、富良野市を中心としたグレートアース、美瑛町では町が開催するセンチュリーライドに代表されるように各種のサイクルイベントが人気を有し、年々参加者も増大傾向にある。また、全国の自転車によるまちづくりでは、広島県と愛媛県が協働で行う「しまなみ海道」のサイクリストの取り込みは、観光客誘致の主流となっており、地場の産業の活性化、新しい産業の創生もされていることも事実である。</p> <p>町においても、この間、十勝岳ヒルクライムが 2 回開催され、観光地を周遊しながら、町内で食事や買い物をして回るイベントなどが開催され、官民協働での自転車を活用した、新しい観光振興への気運が高まってきている。</p>

	<p>そこで、今後の展開について取り組みをどのように考えるか伺う。</p> <p>(1) 町がイニシアチブをとり、富良野美瑛エリアのサイクリングコースの核として、またサイクリストへの「おもてなし拠点」としての取り組みを行ってはいかがか。</p> <p>(2) 各種メディアを招聘して、サイクリストを多く取り組むために、有名なサイクル雑誌へ協力をして、サイクリスト観光客増加に向けてこのエリアを発信する為に別枠の予算を付けて別冊の出版協力をしてはいかがか。</p> <p>(3) 観光客が、自らの自転車を持ち込まなくても、また初心者が気軽に自転車によって地域を散策できるように、公共のレンタルサイクリング拠点をつくり、富良野エリアで共有して、自転車周遊観光促進のためのインフラ整備と、自転車メーカーとの協働によりこのエリア独自の自転車を開発してはいかがか。</p> <p>(4) 現在、民間で様々取り組んでいる広域の事業へも町として、後援をして起業化、新たな雇用の機会創出へのバックアップを強化してはいかがか。</p>
<p>2 11番 米沢 義英</p> <p>1 上富良野町総合戦略について (町 長)</p>	<p>町は、人口減少の中で将来にわたり住み続けられる町にするため、2040年に1万人程度の人口を確保するための、4つの基本方向、素案が示された。しかし、具体的な施策が示されていない。次の項目について町長の見解を伺う。</p> <p>(1) 総合戦略を実行するうえで個別の施策が示されるべきと考えるが、いつまでに住民や議会に明らかにするのか。</p> <p>(2) 従来の施策の延長では、1万人程度の人口の確保は困難と考えるが、具体策について伺いたい。例えば、移住促進、子育て等で新たな具体的な施策があれば。また、施策を実行するうえで、住民や各団体との協議と連携が必要と考えるが。</p>
<p>2 保育料の軽減について (町 長)</p>	<p>町の保育料の設定は、国の基準の80%の料金設定になっている。1号認定では、兄弟で利用する場合、現在小学3年生の子どもがいれば2人目は半額、3人目以降は無料となる。子育て支援の充実のためにも、第1子が就学をしている範囲においても、第2子目は半額にするなど、料金設定の見直しが必要と考えるがいかがか。</p>
<p>3 介護保険制度について (町 長)</p>	<p>介護保険制度見直しにより、要支援者の介護予防訪問介護、介護予防通所介護は地域支援事業に移行することになったが、現行の介護保険サービス事業者の代わりになるようなサービス提供者の確保が困難なため、地域支援事業に移行した市町村は7%程度に過ぎないという状況にある。町においても、サービス提供主体の確保が困難な状況から平成29年4月からになった。</p> <p>次の項目について町長の見解を伺う。</p> <p>(1) 要支援者の心身の状態と生活実態とヘルパーなどが果たしている役割は。</p>

	<p>(2) 現行相当サービスを含め4つのサービス提供の種類があるが、町ではどのようなサービスの提供を目指すのか。また多様なサービスの提供をした場合、要支援者の身体の向上ができるのか。</p> <p>(3) 総合事業に移行した場合でも現在のサービスを必要とする人すべての要支援者が利用できるようにしてはどうか。</p> <p>(4) 現行サービスを提供するには、現行単価を事業者には保障し、無資格・基準緩和のサービスは導入させないことが必要ではないか。</p> <p>(5) 新規認定者、継続者に対して多様なサービス提供の誘導をせず、提供する場合はあくまでも補助的な役割とすべきではないか。</p> <p>(6) 福祉協議会やボランティア等の連携が必要ではないか。</p> <p>(7) 地域支援事業移行により、基本チェックリストによる振り分けがあるが、これまで同様に要介護認定の手続きを進めてはどうか。</p>
<p>4 教育振興について (教育長)</p>	<p>教育費の保護者負担軽減のためにも、中学校へ入学する生徒へ指定ジャージの無償給付を実施してはどうか。また、上富良野高校の生徒確保の支援策として、学校給食の提供実施について伺いたい。</p>
<p>3 8番 竹山 正一 1 商工会の町補助金増額支援について (町 長)</p>	<p>地域経済活動の回復がまだまだ感じられることもなく、商工会は小規模事業者に対し経営改善普及事業に取り組んでいる。組織の構成員は廃業や撤退により事業所の減少が止まることなく続いている。</p> <p>最盛期であった昭和54年頃には416会員がいたものの、35～36年が経過した平成27年の春には個人会員が140人、法人会員が115団体、定款・賛助会員が17人、青年部・婦人部が8会員の合計280会員(△136会員)の現状であり、現行会費財源等の収入維持に困難が伺えるなか、新たに「小規模企業振興基本法」が昨年6月に制定施行された。この基本法を踏まえて商工会を中核とした活動支援体制を構築、経営改善普及事業の中で最も重要である「経営発達支援事業」を実施し、「経営発達支援計画」を策定。国が行う新たな小規模企業の振興施策などを活用しながら伴走型支援という指導体制へと資金面での自己努力を求められ、毎年200数十万円を持ち出し、予算を作成している。しかし、手持ち資金が減少し、枯渇へ向かうと「上富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施にも影響が懸念されることから、次の点について町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 経営改善普及事業における職員設置費の町負担部分の考え方について</p> <p>(2) 経営改善普及事業費等の人件費相当額(補助率100%への改定へ)における町負担の考え方について</p> <p>(3) 今後の商工会振興支援策をどのように考えるのか。</p>

<p>4 3番 佐川 典子 1 子育て支援について (町 長)</p>	<p>国レベル・各自治体レベルで人口減少問題がクローズアップされ、地方創生時代における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定が進められている。</p> <p>わが町の人口動態の現状は、合計特殊出生率 2012 (H24) 年は 1.66 人であり、このままでは 2040 (H52) 年には町の人口は 8,086 人になると推計された。将来の町の人口を 1 万人確保するためには 2019 年までに合計特殊出生率を 1.7 人にする目標値が出された。国や自治体で「子育て支援」に対する支援策の推進が図られている現状がある。どのように進めてきたのか伺う。</p> <p>(1) 若者の定住促進について (2) 不妊治療の支援について (3) 男性の育児参加などの環境整備について (4) 子育て費用の負担軽減について (5) 「子どもを育てる」まちづくりの情報発信について</p>
<p>2 男女共同参画について</p>	<p>第 4 次男女共同参画基本計画が策定中であるが、その実践法となる「女性活躍推進法」が 27 年 8 月末に成立した。女性の就業や登用を進めるためのものであり、2025 (H37) 年には団塊世代が 75 歳の後期高齢者となり、前例のない介護時代が到来する。これからは女性が一方的に介護の責任を任せられる時代ではなくなり、男女共通の認識が必要になる。男女を問わず平等に働く権利と家庭も共に両立させる新しい働き方の構築が求められる。そのためにも将来のこの町の進展に必ず必要になる女性の労働に対する活躍の推進や地域社会での処遇についてどう考えているのか伺いたい。</p> <p>また、女性の意見を反映させるため、農業委員会など各委員会への女性の登用をどのように増やしていくのか伺いたい。</p>
<p>5 9番 荒生 博一 1 平成 28 年度予算の取り組みについて (町 長)</p>	<p>平成 28 年度予算編成時期を迎え、新年度予算に対する次の点について町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 国の定めた中期防衛力整備計画に基づき、防衛省が効率化・合理化を徹底した防衛力整備を進めている中、町では陸上自衛隊上富良野駐屯地の規模縮小などがささやかれている。また、TPP 連携協定によって農業に対する将来の不安や、少子高齢化に伴う消費購買力の落ち込みがみられる。町の経済や町政運営に及ぼす影響も懸念されており、これらの諸問題に対し、今後どのように取り組んでいくのか。</p> <p>(2) 十勝岳山麓ジオパーク構想に伴う今後のまちとしての取り組みをどのように進めていくのか。</p>
<p>2 町営パークゴルフ場の維持管理について (教育長)</p>	<p>今年度の町営パークゴルフ場の管理について、利用者からグリーン上の芝の刈込が不十分であるとの声を聞いた。コース上の維持管理についてどのように行われていたのか伺う。</p>

<p>2 上富良野高等学校の振興策について (教育長)</p>	<p>平成 26 年度の成果報告書において、上富良野高等学校振興策の中に「通学費等補助 537 万 9 千円」とあり、その内訳に入学準備金、通学費補助、就学支援金の記載がされていたものの、下宿費については支出の記載がなく実績がなかったと考えるが、本年度はどのような状況にあるのか。</p> <p>上富良野町の就学機会の確保、地域の活性化に資するよう、地元高等学校の存続を図るための補助目的で行っている制度をしっかりと活用されていないのではないかと。また、今後の上富良野高等学校に対する町としての支援策はあるのか伺う。</p>
<p>6 12 番 中瀬 実 1 町道の補修や改修整備について (町 長)</p>	<p>町道は路線で 431 本あり、総延長は 415 kmになる。主要な路線については 57 路線あり、供用開始から年数が経過している路線は道路状況が非常に悪くなっているところが目立ってきている。</p> <p>これらの町道の補修改修整備はどのような基準、目安で行われているのか伺う。</p>
<p>7 10 番 高松 克年 1 新規就農者に対する支援体制について (町 長)</p>	<p>資金面や農業経営形態など様々な指導が行われている。現在の新規就農状況など次の点について町長の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 5 年間の認定新規就農者数と定着の割合は。</li> <li>(2) 青年就農給付金事業（準備、経営開始型）が開始された。その利用状況と受け入れ農家の現状は。</li> <li>(3) 新規就農女性の受け入れを積極的に行うべきではないか。</li> <li>(4) 農業振興計画における新卒や U ターン、I ターンを含めた就農支援の制度の整備が必要ではないか。</li> </ol>
<p>2 農産物加工実習施設の整備拡充について (町 長)</p>	<p>6 次産業化に向けた基礎的な実習の場として今後の期待に応えるような施設整備の拡充が必要ではないか。また、農産物の持つ機能性を高めるための商品開発が必要と思うが町長の考えを伺う。</p>
<p>3 鳥獣害の軽減と将来の対応について (町 長)</p>	<p>鹿や熊、アライグマ、カラス、ドバトによる農作物への被害が拡大している傾向にある。今後、恒久的な駆除や防護方法を考えなければ被害を減らすことはできないと考える。次の点について、町長の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 過去 3 年間の上記の駆除の頭羽数は。</li> <li>(2) 猟友会の方々の努力や支援により成り立っている現状にあり、今後の駆除対策をどのように考えているのか伺う。</li> </ol>

<p>8 13番 村上 和子</p> <p>1 総合戦略に盛り込まれた事業の実施について</p> <p>(町 長)</p>	<p>地方の人口減少を抑止する政府の「地方創生」を受けて総合戦略の策定が進み、上富良野町においても本年度中に策定する総合戦略の素案が示され、まちづくりトークや各団体との意見交換を行うなど、広く町民の意見を聞かれている。</p> <p>こうした中、町議会としても総合戦略特別検討委員会を設置し、具現化のための意見書を提出したところである。以下のとおり町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 定住人口の増加と地域経済の活性化を重点項目と考え、地方創生による新たな交付金をどのように活用するのか。</p> <p>(2) 平成 28 年度予算の策定にあたり、地方創生事業をどのように位置づけ、予算化していくのか。また、具体策についてどのように取り組まれるのか。</p>
---	---